

2024年1月1日

社長 岩崎美樹

2024年 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

2023年はロシアのウクライナ侵攻継続、台湾有事の懸念拡大、イスラエル・パレスチナの紛争勃発など、世界が一層の緊張感に包まれた年であったと思います。

当社グループが所属する電子部品業界について、電子情報技術産業協会（JEITA）による2023年12月発表の見通しでは、2023年の世界生産額は対前年比3%減となる3兆3,826億ドルが見込まれています。エネルギーや原材料価格の高騰、地政学リスクの高まりなど不透明感が強く、個人消費や設備投資が鈍化する環境の中、デジタル化の投資拡大でソリューションサービスは伸長したものの、それらを補うまでには至らない見込みです。

2024年の世界生産額は前年比9%増の3兆6,868億ドルとなる見通しです。インフレの鎮静化が遅れるなどの景気リスクは残るものの、デジタル化による社会や企業を変革する動きが世界各国で進み、電子機器やデバイス需要の回復、ソリューションサービスの需要拡大も見込まれることが要因です。

一方、日系企業については、2023年の海外生産分を含む世界生産額は前年比1%減となる39兆6,843億円が見込まれています。円安により価格競争力が高まった電子機器が安定的に推移、データ活用の高度化による進展でソリューションサービスが増加したものの、電子部品・デバイスが減少となったためです。2024年は、デジタル化投資の加速により、ソリューションサービスが伸長、電

子部品・デバイスの生産も回復が見込まれることから、日系企業の世界生産額は、前年比5%増の41兆5,638億円の見通しとなっています。

当社グループの2023年度上期は可変抵抗器部門の販売が前年比 Δ 12.5%と大きく落ち込みましたが、一部車載製品の好調が補完する形となり、また円安の追い風もあり、事業計画は達成することが出来ました。下期に入っても中国市場の低迷は続いており、特に可変抵抗器など厳しい市場環境が続いております。

2024年の当社グループを取り巻く環境は、中国市場の景気停滞の影響、地政学リスク増大、エネルギー・原材料コストの高騰、また為替の円高リスクもあり、厳しいものになると考えております。このような厳しい環境下ですが、グループ一丸となって乗り越えていきたいと思っております。

当社グループでは、長期的に廃れることのない技術による製品であったことが、これまでの競争力となっていたと考えておりますが、今後については、新たな技術・製品の開発が競争優位の獲得に必要なだと認識しております。厳しい環境下ではあっても、研究開発の充実によって、可変抵抗器・角度センサ・ヒータの3本柱を太くすること、および、産業界の発展・成長に貢献するような新技術・新製品の開発・市場投入に向けた投資を積極的に進めてまいりたいと考えております。

本年も、さらなる企業価値向上を意識した企業運営を目指し、環境・SDGs対応を推進し、様々なステークホルダーの皆様のご理解を深めていただけるような取り組みを充実させていく所存です。

何卒、ステークホルダーの皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

未筆ではございますが、本年の皆様及びご家族様のご健勝とご活躍を祈念し、
年頭のご挨拶とさせていただきます。

以 上